

# 世界史A さまざまな資料で読み解く《19世紀イギリス社会》

石 出 みどり

2年蘭組（同時公開の他の授業のため、この日の出席者は30名）を対象に、社会科教室でおこなった2時間2テーマの授業である。19世紀のイギリスではさまざまな社会調査がおこなわれるようになり、それらの資料・統計をもとに今日多面的な歴史研究が進んでいる。本時は1テーマ各6枚の資料プリントを用意し、他の視覚資料は実物投影機でテレビ画面に映しつつ、生徒に活発な意見発表・交換をおこなわせる方式で授業をすすめた。ねらいは①統計やグラフを生徒が主体的に読み解く、②物語や絵画が当時のイギリス社会の諸条件のもとに成立したことに気づく、③資料を読み解く歴史研究の楽しさを知ることなどで、概要は以下のようである。

## 第1時 「ふたつの国民」～資本主義確立期のイギリス社会～

- ・階級別の家計、衣食住、労働実態などを比較し、「富める者と貧しき者」のそれぞれの生活を具体的にイメージする。
- ・「シンデレラ」を導入に“Time is money.”の思想と資本主義の成立の関係を考察する。
- ・混ぜ物や偽物の多い食品、低所得層のアヘンの常用、公害の蔓延などをとおして、イギリス資本主義の自由放任主義（レッセ・フェール）を具体的に理解する。

## 第2時 帝國的国民の形成～イギリスにおける帝国意識の拡大～

- ・海外植民地からの輸入品の増加や体位の向上などから、19世紀後半イギリス帝国（British Empire）の確立によって「貧しき者」の生活が相対的に豊かになったことを理解する。
- ・義務教育制度の発足や日常生活の変化を通じて、帝国意識が広く国民に浸透し、「貧しき者」も支配者たるイギリス帝国の「国民」となっていくことを考察する。
- ・少年少女向けの冒険物語や「シャーロック・ホームズ」「ジャックと豆のつる」、またボーイ・スカウト運動や兵隊ごっこ遊びの流行、学校への国旗の設置などが、こうした歴史的背景のもとに成立したことを考察する。
- ・イギリス以外の国々にの帝国意識について考察する。

当日は内容が盛りだくさんなことから第2時の途中で終了となり、さらに1時間の授業が必要となった。時間が許すならば班討論をさせ、クラス全体で考える方式をとりたい。生徒からは「自分で推理して発言し、また他の人々のいろいろな意見も聞けて楽しかった」という感想が多かった。